

外機密

1383

(32)
12

極秘
電信寫

398

see page 392

一九四一年九月二十一日

編者官ハ日本海軍閣ニ一書長好ナル了解ヲ相成シ且太平洋軍艦
ニ於テ平和ヲ樹立スルコトヲ日本大使及其ノ同僚ニ告リ置ケレタ
ル事ナル努力ヲ多トス、同書官ハ又斯次ノ自叙ヲ述シ之ヲ人々
ノ態度ヲ評議シケタル事述ケラ多トス

本館所ハ日本海軍閣ニ一書長好ナル關係及太平洋軍艦ニ於ケル平
和狀態ノ相成ヲ望ムルコトニ於テ日本大使ニ告ラシ且同書官
ハ右様神ニ於テ日本海軍閣ノ有ラユル誠意ニ有難謝ナル所也

日本國へ所屬ノ一方カ供給シ得テ他方カ必要トスルカ如キ物ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ所謂政府へ更ニ管テ日米通商航海條約ニ若干條立セラレ居タルカ如キ正當ノ通商關係ヲ改善セシムルニ必要ナル措置ヲ講スルコトニ同意ス、若シ新條商條約カ帝國政府ニ依リ簽發セラルトキハ右ヘ出来得ル限り進カニ交渉セラルヘク且適當ノ手續ニ從ヒ管轄セラルヘシ

又太平洋地域ニ於ケル通商ノ經濟的活動

太平洋方面ニ於ケル日本國及美國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且通商通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ヘルヘシトノ致ニ爲ラレタル相互的條約ニ基テ日本國政府及合衆國政府ハ兩國カ共々自由經濟ノ促進及發展ノ爲メ必要トスル手段實施シ

外務省

兩國ヲ受ケ得ル進歩互ニ協力スヘキコトヲ前ス
 太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

兩國政府ヘ本了解ノ基調ヲ爲ス文書の方針ハ太平洋地域ニ於ケル平和ナルコト、協力的努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ノ維持及保全ニ貢獻スルヘ兩國政府ノ根本目的ナルコト及兩國ノ何レモ前記地域ニ於テ領土的企圖ヲ有セラルコトヲ聲明ス
 又比律賓群島ノ中立化

日本國政府ハ合衆國政府カ希望スル時期ニ於テ合衆國政府ト比律賓ノ獨立カ完成セラルヘキ限ニ於ケル比律賓群島ノ中立化ノコトノ條約締結ヲ目的トスル交渉ニ入ル用意アリコトヲ聲明ス

電信寫

外機密

1383

(32)
12

極秘
電信寫

398

see page 392

一九四一年九月二十一日

編者官ハ日本海軍閣ニ一書長好ナル了解ヲ相成シ且太平洋軍艦
ニ於テ平和ヲ樹立スルコトヲ日本大使及其ノ同僚ニ告リ置ケレタ
ル事ナル努力ヲ多トス、同書官ハ又斯次ノ會談ヲ進シ之ヲ人々
ノ態度ヲ行儀フケタル事進ケラ多トス

本館前ハ日本海軍閣ニ一書長好ナル關係及太平洋軍艦ニ於ケル平
和狀態ノ相成ヲ望ムルコトニ於テ日本大使ニ告ラキ且同書官
ハ右様神ニ於テ日本海軍閣ノ有ラユル關係ニ行儀置ケル所ナリ

電信寫

377

1383

外機密

ノ下ニ於ケル日本ノ暫ク其意圖ヲ探知セシメ其後其意圖ノ正式聲明ノ
 進言ハ、吾等々得ヤハ或ル程度ヲ明瞭シテ示レリ。得カハ借機吾カ公
 ノ地位ニ於テ附ケル影響ヲ維持シ且公認ト日本ノ非難ヲ上意ノ方
 向ニ動かサント努ムベシ。現在吾等中ノ如キ提案ノ採擧カ甚難カ
 ラル。方面ニ照シ其實質的結果ヲ欲ムルモノ如キニ於テハ、ヘシト
 期待スルハ、如キニ思ハシムルコトナリ。非ヤヤ
 日本經濟ニ中絶態ノ他ノ原因ハ、支那市場ニ要求セラルヘキ日本銀
 幣ノ如キ解決ノ條件中ニ共通運動ニ依リタルモノノ支助トノ協力を推
 進トシテ内閣及北支ノ一環地球ニ於テ日本非難ノ原因ヲ減スヘキ
 協定ヲ締人センシメントスル日本政府ノ要請ニ照スルモノナリ。

377A

1383

行期ヲ支持セラルルヘランコトヲ疑フ。疑由ヲ考メ、不意ニシテ
 此所ノ有力ナル地位ニ在ル日本ノ海軍者中ニハ、國家社會主義ノ興
 進及其ノ任務政府ノ支持ヲ望望スル者甚シ。對シ該處シテナカハ、
 實ヲ以テ、得ヤヤノアルコト及之等ノ人カ最良スヘキ米艦トノ了
 ノ一ノ任務ハ、米艦カ自衛ニ照シテ現在ノ私航ヲ實行スルコトニ
 依リ、歐洲ノ使員行爲ニ依リテハ、マルカ如キ場合ニハ、日本カ「ビト
 」ノ如キ於テ形フコトヲ望見スルモノナルヘシトノ確信カ甚シ
 ニ且日本政府シ其論ナル好意ヲ吾等シテ示ルル如キモノノ報告ヲ各々
 其界中存ラセ、如キニ在キ本政府ニ照シテ了。

電信寫

400

1383

外機密

此ノ米船ノ運送ヲ阻ムル限リ、現會談ヲ最新ノ取置ニ合致セシメ
 本島五月三十一日日本文化ニ手交セラレシヨル「非公式談
 話」ニテ河原カナシエト記載セル文書ノ六月二十一日附寄
 正案ヲ別ニ日本文化ニ手交セルコトトセテ

599A

1383

本報ハ日本郵船ソツア新士ニ接獲テ得ル消息ニテ、本報ニ入
 録シ、船中アル考究ヲ得ヒテ、ト其ノ所カハ、運送ノ是非ノ確證ヲ入
 ルコトヲ欲ササルモ、日本大領事其ノ同僚ニ對シ、船中ノ聯合ニ於
 テ、船中ナルカ知ク米船カ運送セル自由主義的取置ハ、米船政府ヲ
 シテ之ノ影響ト矛盾ナルカ知ク、原ハルモ如何ナル運送ニモ、同僚
 ナルコトヲ存心セサルノト、是レモ、實ニ又事ニ當テ、ノイニ、新報
 了ル事、同僚シテハ、船中運送ノ決定上若干ノ運送ノ取置ヲリトセ
 ン、此ニ船中ノ取置ハ、第三船ノ生體ニ影響セルモノナラシテ、以テ
 本報府ハ、然カハ取置ヲ撤消セルニ、是リテハ、彼モ誠ニ多クマシテ、特
 別ト感セラレ

外務省

秘

1383

指五
部内第拾五

電信寫

401

(別紙甲池)

ハ山部二重一歐西戦争ニ對スル兩國政府ノ態度一ニ關係シ其戰爭ノ和平ヲ維持スルニ對シテハ日本以外ノ諸國ニ對シテモ無差別待遇ヲ爲スコトニ決シ別紙乙並ノ如ク實國ヲ發方ニ提示シ發方ヨリ審判ヲ以テ之ニ回答スルコトト決定官申出タリ右ニ對シ在米大使ハ右ハ何レモ發方ノ見解ト認リニ歸屬アリトテ本國政府ヘ之カ取次ヲ拒否ナル結果アリ然レ共右文書ハ米領ノ考ヘ方ヲ了釋スル上ニ設立ツキメト認メラレタルヲ以テ英ヒテ在米大使ヲシテ電報ヲシメ茲ニ報謝ナル次第ナリ

外機密

總務長官ヨリ日本國大使宛
 本日米兩國政府ニ代リテ妥議シタル共同宣言第二章ニ於テ歐洲
 戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度ニ關シ「スタートメント」ヲ爲シタ
 リ本共同宣言ノ精神ニ導キタル非公式會談中本長官ハ貴大使ニ對
 シ幾多ノ機會ニ於テ歐洲ニ於ケル戰國行爲ニ對スル合衆國政府ノ
 態度及方針ヲ説明シ且右態度及方針ハ奉フヘカラサル自衛ナル權
 利ニ基ケルモノナルコトヲ指涉シタリ、本長官ハ本問題ニ關スル
 本政府ノ立場ヲ充分ニ陳述シ居ル四月二十四日ノ演說ニ對シ特別
 ノ注意ヲ喚起シタリ
 本長官ハ貴大使カ歐洲戰爭ニ對スル本政府ノ態度ヲ充分了知セラ
 レ居ルコトヲ確信スルモノナリ然レ共何等無難ナカラシメンカ爲

電信寫

本長官ハ本問題ニ關シ、本長官ハ前記ニ上テ
 合詞ニ於ケル自國ノ安全ノ障礙ノ爲合衆國ノ保護スルヲ圖ルナクセ
 ブルルヲ却テ拒絶ニ關シ、日本國政府ハ太平洋地域ニ於ケル平和
 ヲ樹立シ且保全スヘシトノ本國憲法ノ精神ニ對シ又ハ之ヲ破
 壞スルコト知サレ毎カノ所當ヲ辨ルコトヲ望ムヘク何等ノ紛争ヲモ
 認ムラサル旨ノ旨、本國政府ノ態度カ貴文ニ對シ得ラルレハ欣快
 トスル所ナリ、

日本國大使ヨリ總務長官宛

本大使ハ六月

附貴長官ノ御禮拜交セリ

本大使ハ本國政府ニ對シテノ態度カ貴長官ニ對シテ欣快セリ

電信寫

403

外機密

402 A

1383

總領シ太平洋地帯ニ於ケル平和ノ樹立及保全ニ寄アル何等ノ得度
ヲモ探ラサル決意ヲ有ス

又貴長官ノ四月二十四日ノ演說中ニ陳述セラレタルカ如キ歐戰ニ
於ケル戰闘行爲ニ對スル合衆國政府ノ態度ヲ充分示知シ居ル旨貴
明致度シ、本大使ハ合衆國政府ノ方針ニ付本大使ニ説明セラレタ
ル趣リ之ヲ本國政府ニ報告スルコトヲ怠ラサリキ、又本大使ハ本
國政府ハ歐洲戰爭ニ關スル合衆國政府ノ態度及立場ヲ了解シ且之
ヲ正當ニ評價シ居ル旨貴長官ニ報告致度シ
本大使ハ又合衆國政府カ自國ノ安全ヲ防衛スル爲ニ探探スルヲ餘
儀ナクセラルルカ如キ措置ニ關シ、日本國政府ニ於テ本協定ノ根
本目的ニ違背シ又ハ之ヲ破壞スルカ如キ何等カノ措置ヲ採ルコト
ヲ要スヘキ何等ノ拘束ヲモ爲シ居ラサル旨貴長官ニ報告致度シ
日本國政府ハ本協定ノ締結ニ依リ自由ニ受附ケタル責任ヲ充分ニ

1383

1383

33

404

(一) 日本國及支那國間ノ「經濟的協力」ナル字句ハ合衆國及他ノ第三國ノ政府及國民ニ比較シテ日本國政府及日本國民ニ有利ナル差別待遇ヲ爲スヘキ何等優先的若ハ獨占的權利ヲ支那國政府カ日本國政府又ハ其ノ國民ニ對シ賦與スルコトヲ豫定シ居ルモノナリヤ、日支間ノ和平解決ノ爲ノ交渉開始ト同時ニ北支開發會社及中支振興會社設ニ其ノ支社(複數)ノ如キ日本ノ特殊會社カ日本國政府ノ支持ノ關係シ格ル限り、日本ノ軍事の占領下ニ在ル支那ノ地域内ニ於ケル現存ノ鐵坑ノ故ヲ以テ之等ノ會社カ實際上行使シ若ハ之等ニ自ラ斷願スヘキ如何ナル獨占的若ハ其他ノ優先的權利ヲモ喪失スヘシト豫定セラレ居ルヤ

二) 日本ノ軍事的占領下ニ在ル支那領土内ニ於ケル第三國國民ノ實

